

日本画

応募点数	50点	招待作品	8点
入賞点数	7点	展示点数	58点
入選点数	43点	◎は移動展出品作品	

(総 評) 本年度の出品点数は昨年度より微減となりましたが、初出品された方や久々の応募などが増えました。

昨今は芸術系を趣味にする方が減り、県展の出品者も減少の傾向にあります。

特に日本画は膠や岩絵具の扱いなど基本的な知識が不可欠なため、出品にいたるまではかなりの時間を要します。それぞれ教室に通ったり、グループに所属しながら描いていらっしゃるようです。

今回知事賞を受賞された「野わけの後」を出品された佐藤さゆみさんは三回目の出品、金賞の「蒼雲蓮華」の西藤真弓さんは久々に昨年から出品されています。

全体的に作品の質は向上して見応えのある作品が多くなっています。審査は無記名投票で行っていますが、同点での決戦投票をくり返すなど作品間の差が縮まっています。

日本画絵具（岩絵具）の透明感や、質感、などの日本画のかもしれない世界を楽しんで下さい。

又、日本画に感心のある方は近くの教室やグループの扉をノックして下さい。

(文責 小村 俊美)

知事賞 ◎

野わけの後

佐藤 さゆみ (出雲市)

野わけ後の畔道に、可憐な小花をつけた野げしが、力強くも的確な表現で描いてあります。

暮れゆく時の微妙な空気を、もみ紙に青墨をしみ込ませ、独特の潤いある空間表現に成功し、身近に多くある雑草の生命力を、これだけダイナミックに表現される技術は、素晴らしいと思います。

今後も、何らかの感動や意図を心の中であたため、それを効果的に表現するよう、制作にはげんで下さい。

この受賞をバネにされ、一層自分の絵画表現をされますよう期待しています。

(文責 大森 幹雄)

金 賞 ◎

蒼雲蓮華

西藤 真 弓 (浜田市)

蓮は泥中に根を据え、水上に浄らかな花をさかせます。その生きざまが、古来より天上の浄土へと私達を誘ってくれる花と考えられてきました。

美しい花を咲かせるために精魂を使い果たしたと思える葉っぱを主役に、花やつぼ

み、咲き終わった姿などを脇役に巧みに配してあります。

まるで人の一生を画面に凝縮してあるように思われ、あの葉っぱは子育てを終えた母親の安ど感でしょうか。観る人に安らぎと一抹のはかなさを感じさせます。

作者の思いが蓮の姿を借りて見事に昇華された精神性の高い作品となりました。

技術的には、細部まで丹念に描き込まれ、かつ色遣いは大胆で、日本画の顔料「岩絵具」の長所を、うまく引き出しています。 (文責 安部 富男)

銀 賞 ⑧

暮れゆく

北脇豊史 (出雲市)

しっとり湿った空気が感じられる夕景が描かれています。手前の生い茂った枯れた雑草から季節は晩秋だろうと思われまます。

白く描かれた川面に夕暮れの光が映り込み情感をそそります。川の形態がとても自然で作者の風景画に対する真摯な姿勢を感じることが出来ます。

濃い緑のトーンで描かれた岸辺は、幾重にも塗り重ねられ、その色彩が画面に重量感を与え、観る者を風景画の中に引きこんでいきます。

どこか孤独感も感じられる深い情感の漂うすばらしい作品だと思います。

(文責 清水 誠子)

銀 賞 ⑧

流燈

伊藤圭子 (出雲市)

身近な暮らしの中から生まれた作品で、みているうちにあたたかい感動をおぼえました。群青を中心とした夕ぐれ表現が工夫され、水面やそこにかぶるろうの明るさのちがいが等、細かいところまで神経がゆきとどいています。

また、画面構成も的確で、技能の高さを感じました。人物の視線がろう流しの手もとにきちんと向かっていて、画面がひきしまりよい作品です。

今後のさらなる活躍を期待しています。

(文責 浜村 厚子)

銅 賞 ⑧

13才の夏休み

福岡美智子 (出雲市)

作者は、最近老犬を描き続け、その生き抜く生命を、力強く、表現していらっしゃいました。が、今回は、少女、朝顔、スマホと、モチーフを変えて、挑戦なさいました。

次々と咲く花・朝顔、スマホを操作する夏休み中の少女に、未来につながる確かな時間や生命を感じます。

作者の話によりますと、今回の作品では、日本画用の和紙の使い方に、新しい技法を使った、言わば、試作とお聞きしました。作品では、半透明の障子部分という事です。功を奏し、魅力的な表現となり、感心致しました。

人物デッサンは難しいのですが、少女の画面右側の肩のボリューム・腕の長さ、太さにデッサンの甘さを、少し感じますが、いかがでしょうか。

少女の夏休みのひとときの時間や空気を感じさせる作品は、作者の一連の秀作のひとつだなどと思いました。(文責 村上ななほ)

銅 賞 ⑧

びょうまえ
廟前のガジュマル

きよ はら しげ はる
清 原 茂 治 (松江市)

この作品は作者の真摯な視線がモチーフにしっかり対峙され、ガジュマルの存在感と精神感が表現されています。

すぐれた描写力でガジュマルの根っこから葉の一枚一枚までも丹念に描き込まれ、自然の象徴として強い効果を上げています。

穏やかな色彩と丁寧な筆致で余すことなく描き込まれ、画面の中に強さと優しさが伝わってきます。

少し硬さはありますが、生命への深い思いが伝わってくる佳作です。

(文責 福間小夜子)

銅 賞 ⑨

どうじょう
道場

はら くに こ
原 邦 子 (出雲市)

土俵を取り囲む少年達の様子が、光の束と逆光で描かれた秀作です。

光の眩しさと少年達のフォームの明暗が画面を引き締めています。後姿に少年達の息遣いが聞こえてくる様な力強さと初々しさが感じられ、作者の視線の温かさまでも伝わってきます。色調を抑え、色幅を極限まで狭くしての表現には難しさがありますが、その中で描ききる作者の色彩感覚と技術力を賞賛します。

欲を言えば、もう少し人物のデッサンを細密にして、具象化する部分を省略する部分のめり張りがあれば、より実在感が増してくると思います。

これからも、自分らしい世界観を大切に、温かい目差しで生活の一部を切り取り、作品として表出されますことを期待しています。(文責 吉岡 珠恵)

入 選

	題 名	氏 名	備 考
⑧	一葉知秋	古 森 和 代 (浜田市)	
⑨	二十歳	大 石 照 子 (益田市)	
	夢婦 - めふ -	渡 麻 矢 (大田市)	
	朝霧	米 原 修 司 (安来市)	
	弁柄の里で	若 槻 年 恵 (出雲市)	
	邂逅	引 野 春 雄 (出雲市)	
	宵	榊 原 好 子 (出雲市)	
	休日	黒 田 育 子 (出雲市)	
	鉄線花	江 戸 健 (出雲市)	
	魁	小 川 明 夫 (浜田市)	島根日本画協会賞
	夏日Ⅱ	富 岡 文 枝 (出雲市)	島根日本画協会奨励賞
	浜昼顔の頃	岸 静 子 (出雲市)	

題名	氏名	備考
老木に宿る	石橋陽子(松江市)	
「希」	小林晴夫(松江市)	島根日本画協会奨励賞
旅立ち	井上櫻子(松江市)	
初孫	佐々木勉(松江市)	
冬風	山根葉子(松江市)	
春の日	荒川ゆかり(松江市)	島根日本画協会奨励賞
うつろひ	石倉由美子(松江市)	島根日本画協会奨励賞
朝靄	吉岡好昭(松江市)	
南無の路	杉原瑩子(松江市)	
夏の尾瀬ヶ原	吾郷亘(松江市)	
波のささやき	菅野あい子(松江市)	
春光	飯塚眞治(出雲市)	
ゆく春に	鹿田純子(松江市)	
夕映え	今岡恵子(出雲市)	島根日本画協会奨励賞
郷愁	松井秀子(大阪府)	島根日本画協会新人賞
piece	森脇純子(出雲市)	島根日本画協会奨励賞
⑩ 透 - HAKU -	山口晃永(江津市)	
ファミリー	米原ひろこ(出雲市)	
袖垣	田中初子(出雲市)	
⑩ 無病息災	鵜飼享一(出雲市)	
甦	須谷幹子(出雲市)	
つなぐ	広田あつ子(安来市)	
窓	柳楽朝子(出雲市)	
赤いヘッドホン	内藤博信(松江市)	
出雲国原	内藤章江(松江市)	
高砂百合の咲く原	松下純子(出雲市)	
花	松原安杏(松江市)	
清陰	矢野きよ子(松江市)	
⑩ 畏	角田智竭(松江市)	
静寂	舟木美代子(松江市)	
⑩ 顔	三島京子(松江市)	

招待

題名	氏名	備考
光の先へ	小村俊美(出雲市)	
彩	大森幹雄(出雲市)	
⑩ 花精	安部富男(松江市)	
水無月の朝	清水誠子(出雲市)	
初秋の朝	浜村厚子(出雲市)	
流水	福間小夜子(出雲市)	
沼地	村上ななほ(松江市)	
⑩ 梅雨入り	吉岡珠恵(松江市)	